

精神科デイケアだより

みさとメンタルクリニック

2025年7月号

「祈り」について

所長 田井健

6月30日から7月1日かけての精神科デイケア旅行、メンバーたちで決めた行先は「鎌倉」。デイケアに携わる職員に加え、私も田口先生も泊りで参加します。

鎌倉と言えば、大仏さま。6日の精神科デイケアでの「田井企画」では、「祈り」についてというお題で、田井が以下のつぶやき(抄)を提出し、皆で話し合いました。

○人生、思いつ通りにはいかないことばかり。人事を尽くして天命を待つ、としか言いようがない

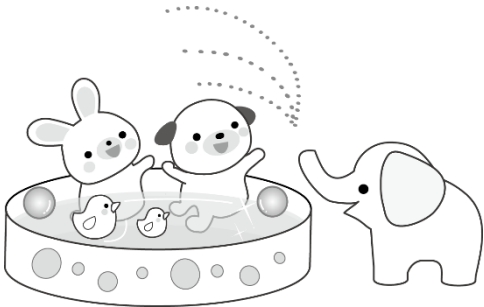
○「生きている」「それだけで、実は「頑張っている」。意欲があっても無くても、意識があっても無くても、存在している、という事自体に意味があり、「頑張る」「今、「」に在る

○そう思うと、「もうこれ以上は頑張れない」「祈るしかない」とも思う
○でも、何に、何を、祈るのだろうか?

○人が一人では生きていけず、集い、群れて、初めて存在出来るのであれば、この傷つきやすい集いの場の平和・存続を願い、そこに参加・貢献しようとしている自分に、ゆるしと感謝の祈りをささげたい

○「人となりがりたくない」という人にも、祈りを届けたい。でも、そんなことに意味がある? 具体的には、どういうこと?

今回の話し合いでの、私にとっての大きな気づき。“自分自身が確立している”と当たり前のように感じている(私たち大多数の)人の祈りは、感謝、願いなど、現世・現実に向かう要素が大きいかも。一方で、孤立した、自分自身が成り立たなくなるような厳しい事態に至った方の祈りは、自分を越えた、開かれた世界へ向けたものとなるのかも。...



～精神科デイケアはこんなところです～

精神的に生きづらさを抱える方が、単に病状から回復するだけでなく、人生に新しい意味と目的を見出せるようサポートします。様々な活動や人との交流を通じて、自分が抱えている問題と上手に付き合う方法を考えるお手伝いをしています。今より少しでも生活がしやすくなることを目指しています。

詳しい情報は
ホームページから!

